

MaaS アプリの活用により公共交通の利用を促進します ～愛知県スマートシティモデル事業の6市に選定～

1 目的

日常の移動手段として必要な公共交通が、将来にわたって便利で安定した運営を確保し続けるため、複数の公共交通などの移動手段を最適に組み合わせ、検索、予約、決済などを一括で行う MaaS※（マース）アプリを活用した実証実験を行い、今まで以上の利便性向上など、継続して利用し続ける仕組みの確立を目指します。

※ MaaS (Mobility as a Service)

2 背景

本市の公共交通は、鉄道駅周辺などを中心として、4路線の鉄道や路線バス、かすがいシティバスなど、多様な移動手段が整備されています。

今後、高齢化による自動車運転免許の返納が増加する等により、日常生活の移動を支える公共交通がますます重要となることから、より多くの市民への必要性の理解浸透や利用促進の取り組みが重要となります。

3 概要

名古屋鉄道が提供する MaaS アプリ「CentX（セントエックス）」（Web アプリ）を活用し、公共交通の情報提供に加えて、アプリ内でのデジタルチケット販売やオンデマンド交通の配車依頼サービスを提供します。

(1) 実施主体

春日井市、東海国立大学機構名古屋大学、
名古屋鉄道株式会社、一般財団法人計量計画研究所

(2) 期間（予定） 令和5年1月中旬から2か月程度

(3) 実施地域 春日井市全域

(4) 連携対象

ア デジタルチケットの販売

かすがいシティバス

（定期券、1日乗車券）

イ オンデマンド交通の配車依頼

・北部オンデマンドバス

・AI オンデマンド乗合サービス（高蔵寺ニュータウン内で実証中）



デジタルチケットイメージ
（出典：名古屋鉄道）



4 その他

- 本事業は、急速な高齢化や環境問題などの様々な地域課題の解決を図るための「愛知県スマートシティモデル事業」に今年度選定（県内6市が選定）されました。
- 今後も関係機関と連携を図り、デジタルチケットの導入による利用者の負担軽減のほか、バス運転手や販売窓口の負担軽減など、それぞれに利点がある仕組みの構築を目指します。（別添「事業概要書」参照）

(春日井市) MaaSアプリを活用した公共交通利用促進と交通行動変容の働きかけ

課題認識

公共交通の利便性を確保し続けるためには、市民の皆さまが現在の公共交通の状況を認知し、関心を持ち、実際に利用しやすい仕組みと、継続して公共交通を利用し続ける仕組みを、同時に確立することが重要。

事業内容



- ①デジタルチケットの販売、インセンティブ付与
・サービス利用促進
・バス運転手、販売窓口等の負担軽減
- ②AIオンデマンドシステム連携
・サービス利用促進、WEB予約・乗合誘導
・オペレーター負担軽減
- ③①、②を踏まえた社会的コストの削減、コミュニケーションを中心とした働きかけ

公共交通利便性の継続的な確保

目指す方向性

利用者 (市民)
・DX による負担軽減 (デジタルチケット、WEB 予約)
・利用者増によるサービスレベル維持

体制



MaaS アプリの乗車券 DX やオンデマンドシステム連携による『3 方よし』の好循環サイクル

交通事業者

・利用者増による収入増加
・運転手、オペレーターの負担軽減
・乗車券販売窓口の負担軽減

行政

・利用者増による収入増加
・紙チケット減による労務・コスト削減
・人件費、社会保障費等の削減